

戦争を知らない世代へ ④1 岐阜編

灰燼の街・岐阜

岐阜・各務原・大垣空襲の記録

創価学会青年部反戦出版委員会

第三文明社

戦争を知らない世代へ ④1 岐阜編

灰燼の街・岐阜

岐阜・各務原・大垣空襲の記録

創価学会青年部反戦出版委員会

第三文明社

戦争を知らない世代へ④

灰燼の街・岐阜—岐阜・各務原・大垣空襲の記録

昭和53年7月8日 初版第1刷発行

編者◎ 創価学会青年部反戦出版委員会

発行者 栗生一郎

発行所 株式会社 第三文明社

郵便番号 101 東京都千代田区猿樂町2-5-4

振替 東京5—117823 電話03(294)8731(代)

印刷所 凸版印刷株式会社

製本所 株式会社 星共社

落丁・乱丁本はお取り換え致します 0036—7041—4438

1978 Printed in Japan

発刊の辞

わが岐阜県は、日本のほぼ中央に位置している。その歴史をひもといていけば、そこに記された幾多の事実は、岐阜の地が常に戦乱の巷と化していたことを物語っている。古くは『壬申の乱』にはじまり、戦国時代を経て、やがては明治維新という、中世から近世へと移るための、夜明けの舞台ともなった。

そして、時は流れ、戦乱の歴史に終止符を打った出来事こそ、まさに、第二次世界大戦であったといっても過言ではないと思う。

人びとは、昭和二十年七月九日の『岐阜』ほか、県下に十二回にわたって行なわれたB29の空襲から逃れ、九死に一生を得たばかりでなく、ようやく解放された終戦の日からも、極度の食糧難と貧困を強いられたのであった。

いつの世でも、戦闘員、非戦闘員を問わず、虐げられ、多くの犠牲を払わされるのは、抗する

べき何の力も持たない無辜^{むこ}の民衆であつた。「戦争さえなかったら……」という思いは、そんな人びとに共通した心情ではなかつただろうか――。

それを考える時、われわれは、「戦争というものがいかに悲惨なものであるか」ということを積極的に、事実として受けとめなければならなくなる。その意味から「戦争を知らない世代」に属するメンバーにより、岐阜県下の空襲体験手記を一冊の本にまとめる企画がなされ、ここに発刊の運びとなつたのである。

戦争を知らない世代のメンバーにとって、ここに寄せられた手記のすべては、その悲惨さと残酷さ故に戦慄させられ、眼をおおいたくなるような事実ばかりであつた。しかし、そうした体験者一人ひとりの手によって、現在の郷土・岐阜県の見事なる復興と発展があることを夢寐^{むび}にも忘れてはなるまい。そして、不安定の精神のさなかにあつて、これらの体験こそ、「戦争を知らない世代」の一人ひとりが自らのものとしていかなばならないし、しかも急務のものであるとして、自ら語りあげ、恒久平和を樹立するための確実な一助としていかなければなるまい。

その意味からこの一書が、力強い一石を投じるであらうことを祈つてやまない。

最後に、われわれの郷土に散つていった多くの犠牲者たちに哀悼の意を表するとともに、未だ

心身に深く残る戦争の傷跡を、あえて手記という形で現すという、この難事業に協力をたまわった方々に、心から深謝をするものである。

昭和五十三年五月三日

創価学会青年部

岐阜県青年部長 大平雅之

目次

発刊の辞

岐阜県空襲の概略

第一章 焼夷弾の雨降る岐阜

二人だけの葬儀の行列	河野隆次	15
悲しい出会い	石山照子	23
耳に焼きついた焼夷弾の音	松尾芳夫	29
白衣の天使	南 信子	39
この世の地獄	加藤重一	45
忘れられないおにぎりの味	宮嶋千枝子	52
戦火に追われた青春	匿名	56
一枚の夏布団	国井あい子	63

姉に手をひかれて……………	遠山 勉	70
恐ろしい機銃掃射……………	中島たま	78
百メートルに四十個の焼夷弾……………	橋本龍夫	82
線路の上を走って……………	匿名	87
焼死体のなかを小学校へ……………	松尾三郎	94
夜明けまで炎に追われ……………	太田一枝	98
学校の防空主任……………	加納勇雄	103
火の雨のなかを逃げ惑う……………	若園千代子	110
鍋をぶらさげて……………	井上秋子	117
再会の喜び……………	碓井芳子	122
煮えたトマト……………	渡部正子	129
平和の希求……………	上松陽助	135
第二章 炎に包まれた各務原		
両手にのった四人の肉片……………	杉浦庄市	143
今は歌えない子守歌……………	平光美那子	148

青春の日々は『産業戦士』……………	水口一三
防空壕に生き埋め……………	森りかの
家族五人を失って……………	太田四郎
晴天のへきれき……………	横山雪子
	177
	170
	163
	157

第三章 炎上する大垣

三十三年前の悪夢……………	桑山清
大垣炎上……………	村井和子
不発弾で助かる……………	田村文子
食糧難……………	坂上ハルノ
安住の地はなかった……………	山根綾子
	201
	197
	192
	188
	183

あとがき

年表・岐阜県下空襲史と罹災概況

岐阜空襲に関する意識調査

岐阜県空襲の概略

わが岐阜県への空襲は、**「盲爆」**ではなかった——。それは「MAP26」（アメリカ軍公表資料）と記されたアメリカ空軍作成の岐阜市、各務原市などの精密きわまる地図が物語っているからだ（口絵参照）。

終戦まぎわの昭和二十年三月二日を機にして、アメリカ軍の戦闘機、爆撃機による岐阜県下への空襲が本格的になった。同年三月二日、六月九日、二十二日、二十六日、七月九日、十三日、十五日、十九日、二十四日、二十八日、八月二日、十四日の合計十二回にわたって、岐阜市をはじめ大垣市、各務原市、多治見市の周辺地域に爆撃が行なわれた。

「岐阜県史」（通史編近代下）にも、「マリアナ基地を発進したB29が（中略）、志摩半島南部から、三重・奈良県境付近を北上して、さらに琵琶湖付近を経て岐阜県下に侵入……」と記されている。事実、取材に当たった際も、多くの人びとから、「敵機」は三重県の方角から北上するのが見え、一度は全く見えなくなり、再び現れた時には、岐阜市の上空をおおってしまうようなたくさんの数でした」と聞かされた。

県下には、各務原市に陸軍の飛行場、岐阜市にその生産基地であった航空機工場を有しており、さらに県最西の大垣市の三市が爆撃の「目標」となったのである。三市ともに焼夷弾爆撃であった。こうした状況下にもかかわらず、県下の人びとは本土決戦に備えて、竹やりで敵を撃つなどというこっけいな訓練を強いられていたのであった。もちろん、戦争を知らない世代が一言

岐阜県空襲の概略



空をおおうように来襲したB29爆撃機は大量の焼夷弾を投下した

に、「こっけい」などと表現してはならない内容のものではある。当時の人びとにとってみれば、死に直面した緊張の日々のなかで起死回生への勇気と皇国を守る熱情の現れであったにちがいない。

戦争の激化にともない「繊維の町」岐阜市は軍需工場の町に早がわりした。それだけに最も大きな被害をこうむる結果となった。昭和二十年七月九日午後九時半ごろより、従来の爆撃コース通り伊勢湾上空から侵入したB29の編隊によって無数の油脂焼夷弾が投下された。そして、岐阜市は一回の爆撃で市街地の七八パーセントが灰燼と帰してしまったのである。爆撃は、翌十日の午前二時三十分ごろまで約五時間も続いた。

もちろん、その間にはわが県に駐屯していた陸軍部隊の手によって迎撃はされたものではあったが、岐阜市の潰滅は赤兎の手をひねるよりも簡単なもの

のだったと思う。

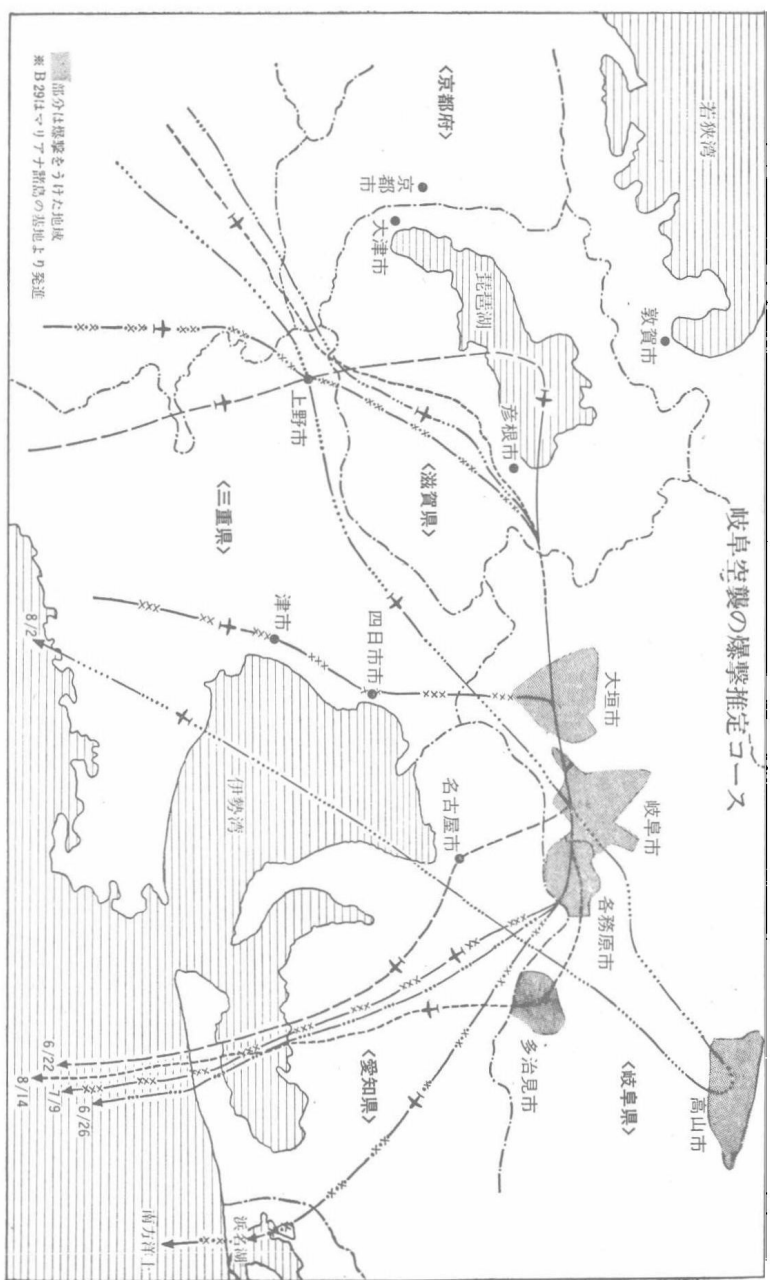
当時の模様は、「岐阜県史」によれば、「明治二十四年（一八九一）の濃尾震災以来、市民の営々たる努力により建設された県都・岐阜の五十有余年の歴史は、一夜にして灰燼と歸した。岐阜駅（国鉄）のプラットホームに立って北を望めば丸物百貨店の残骸を除いて岐阜県庁（當時は司町にあったもの）まで、遮る物もない焼野原であった。さらに身元不確認焼死者が金公園など市内各処に縁者によって尋ねあてられるのを待っていたなど文字通り県民の一大痛恨事であった」と記されている。

現在の岐阜市の繁栄からは、とても想像できないことだ。しかし、それは事実として数々の資料とともに、恐ろしい空爆下を逃げまどった人びとの胸には今なお鮮やかに焼きついていると思う。終戦から三十三年になる今日、当時の人びとはすでにお年寄りとなり、そうした人たちのさだかでない記憶をたどりながら、岐阜県空襲の体験記をまとめたものである。また、岐阜市の空襲を語る時、左右に隣接した大垣市、各務原市の模様にも触れないわけにはいかない。

本書に綴ったものは、空襲体験のほんのさわりであり、表現の方法にしても全く戦争を知らない世代のわれわれが収録したものであることから稚拙で不行届きな面ばかりである。その点はご容赦願いたい。ただひたすら、戦争を知らない世代のために反戦思想高揚の一助たらんとの熱き

思いで、微力もかえりみず、岐阜県反戦出版委員会の数人のメンバーが団結して三市に足を運び、取材したものである。

岐阜空襲の爆撃推定コース



第一章

焼夷弾の雨降る岐阜

